

# 町村週報

(町村の購読料は会費)  
(の中に含まれております)

## 2648号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03 3581 0486 FAX03 3580 5955

発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697

<http://www.zck.or.jp>

**閑話**

徳島県上勝町長の笠松和市さんが佐藤由美さんと共著で『持続可能なまち小さく、美しい』を刊行した。この書名は、一九七〇年代に日本でも話題になったシューマツハの『スモール イズ ビューティフル』人間中心の経済学』を想起させる。そのシューマツハは、オーストリア出身の政治思想家のレオポルド・コールの弟子であった。コールは『居酒屋の経済学』で知られているが、彼は、「あらゆる社会的な災いの背後にはただひとつの言葉が見える。巨大さだ。」と喝破し、モノが大き過ぎることが問題だとした。小さな組織や小さな都市、そして小さい国家

### 閑話

## 復権 スモール・イズ・ビューティフル

東京大学名誉教授 大森 彌

が、巨大なそれよりもいかに効率的で、愛に満ち、創造的で安定しているか論じ、身の丈の規模の大切さを説いた。小さいことがいいことで、美しいというのだ。

ひるがえって、平成の日本では、「小さいことは迷惑だ」といわんばかりの市町村合併が推進され、規模拡大による効率化が追求されている。その結果、人口と面積が著しく乖離する市や町が生れた。一〇町村の合併で人口約八万人の栗原市が誕生したが、その面積は約八〇〇平方キロにまで広がり、そこを震度六強の地震が襲った。孤立した集落の情報が届かないなどの弊害をマスコミは

「大合併」被災地に影」と報じた。規模の合理化を促し、昭和大合併をいざなった、一九五〇年一二月の「神戸勧告」でさえ、「人口と面積との関係について充分配慮すること。人口密度の高い地方を除いては、あまりに広大な面積の農村を設置することは、かえって住民の役場への距離を遠くし、また、教育施設等について能率的な経営を困難とする事情もあることを考慮する必要がある。」と指摘していた。「構造改革」の一環として推進された平成の合併には、こうした配慮に欠けている。笠松町長が強調しているように、構想力・人間力・環境力・自然力・再生力を持つ地域は小さくとも持続可能である。国は、今こそ、小さく、美しい町村を守る政策に転換してほしい。小さいがゆえに苦境に立つ町村を迷惑視する国は醜くはないが。



鹿島流し(秋田県)

もくじ	政 策	総務省が第三セクター等の改革に本腰 公立病院改革では新たな財政措置検討へ.....(2)	写真募集 本誌表紙に掲載の写真を募集しています。 四季折々の風物や行事など適当な写真がありましたらご寄贈下さい。(写真には題名、町村名を付けて下さい) なお、採否は当方に一任願います。 送り先: 全国町村会・広報部
	フォーラム	地域の環をつなぐ循環型社会のまちづくり = 福岡県大木町 .....(4)	
	情 報	町村Navi .....(8)	
	情 報	「温泉ビューティ」 = 温泉の美容力 = 温泉ビューティ研究家 石井 宏子.....(9)	
	随 想	先人から教えられたもの ..... 福島県川内村長 遠藤 雄幸.....(12)	

# 総務省が第三セクター等の改革に本腰

政 策  
解 説

## 公立病院改革では新たな財政措置検討へ

総務省は6月30日、第三セクター等の改革に関するガイドラインをまとめ都道府県知事等あて通知した。財政健全化法の施行を踏まえ、各自治体に「経営検討委員会」（仮称）を設置し、2009年度中に第三セクター等ごとに「改革プラン」を策定するなどその存廃を含めた改革を要請した。同省は、併せて、経営が悪化した第三セクター等の処理方策などを検討する新たな債務調整等研究会も再開した。「地域力再生機構」（国会で継続審議中）の活用も含めて、今後、第三セクター等の整理が本格化する。一方、公立病院については、現在、「公立病院改革ガイドライン」に基づき再編・ネットワーク化等の改革が進められているが、一転、不採算地区病院等の地域医療確保に向けた新たな財政措置のあり方の検討に着手した。年内にも報告をまとめ来年度予算案に反映させる。過疎地の公立病院等を抱える町村にとって、その動向が注目される。

### 09年度中の三セク改革プラン」作成を要請

財政健全化法が施行された。同法に基づき、今年度から個々の地方公社や第三セクターの経営状況が明らかにされるほか、その負債・債務の一部は自治体の一般会計にも算入される。このため、先に閣議決定された「骨太方針2008」では、「第三

セクターの改革に関するガイドライン等に基づき、経営が著しく悪化したことが明らかになった第三セクター等の経営改革を進める」ことが明記された。

これを受けて、総務省が同ガイドラインを作成し、各自治体に通知した。ガイドラインは、「経営が著しく悪化したことが明らかになった第三セクター及び地方公社の存廃

を含めた改革を集中的に進めるため、以下の取組を09年度までに集中的に行う」よう求めた。

具体的には、第三セクター等の経営状況等の評価と存廃も含めた抜本的な経営改革を検討するため「経営検討委員会」を08年度中に設置し、評価・検討を開始するとした。なお、同委員会にはデュー・デリジェンス（資産査定）の専門家や公認会計士・弁護士等の経営・債務整理に関する有識者など外部専門家を活用するとともに、第三セクター等改革は地域経済にも影響を与えることから地域の経済団体や金融機関との連携にも意を用いるべきだとした。さらに、複数の自治体が出資している第三セクター等については、関係自治体が共同で責任を持つて同委員会の運営を行うべきだとした。

また、経営検討委員会が評価・検討の対象とする第三セクター等については、「経営が著しく悪化しているおそれがあるものを幅広く対象とする」こととし、特に「標準評価方

式」（基準第二の二の1）でB～E評価となった第三セクター等は原則として対象とすべきだとした。

さらに、経営検討委員会が行う「評価・検討」について、資産・負債や損益の状況、営業キャッシュ・フローの動向、経営悪化の原因・ほか、第三セクター等に期待されている役割や今後の関連市場の動向や経営の見通し、現状のまま経営を続けた場合の自治体の財政負担などを分析し、その結果に基づき第三セクターごとに「改革案」を作成することとした。

その際、経営を継続する場合のほか、私的整理・民事再生法等の法的な事業再生を図る場合や法的整理等で清算する場合など、様々な選択肢を幅広く検討し、複数の選択肢を提示することが望ましいとした。併せて、これらの改革案の検討では、自治体の負担は出資の範囲内・損失補償契約等に基づく負担が原則で、過度の負担を負うことのないよう留意も求めた。

その上で、ガイドラインは、各自治体に経営検討委員会の意見を踏まえてそれぞれの第三セクター等こと

## 政 策

に経営改革に関する方針を定めた「改革プラン」(仮称)を09年度中に策定することとした。併せて、議会に対し、同委員会の経営分析や評価・検討内容、「改革プラン」の妥当性、自治体の財政運営への影響を説明 地域住民にも、分かりやすい形で広報し理解を得るよう努めるべきだとした。

また、「改革プラン」の実施状況について経営検討委員会に定期的に報告するなど点検評価を実施することとした。その際、第三セクター等に対する自治体の監査体制も強化することが妥当だとした。

一方、総務省は6月30日、新たなメンバーによる債務調整等に関する調査研究会(座長・宮脇淳北海道大学公共政策大学院教授)を発足させた。経営が悪化した第三セクター等について、「責任を明確化するための方策」を明らかにするとともに、「再生不能な第三セクター等の処理方策 地域力再生機構の活用で再生する際の自治体負担が生じる第三セクター改革の処理方策」などを検討し、年内にも報告をまとめる。

第三セクター等は、07年3月現在、合計9,007法人(うち市町村6,092法人)があるが、うち損失補償債務残高は604法人で3兆986億円、債務保証残高は753

法人で5兆5,334億円にのぼる。

増田寛也総務相は記者会見で「第三セクターの整理を断行するには、損失補償契約の履行が必要となり、そのための地方債等の財政措置の要望もいただいている。これは、住民負担に直結する問題であり、第三セクターの経営責任をはっきりさせる必要があるので、研究会の成果も踏まえて第三セクター等の経営改革を進めていきたい」と述べた。これまでも、第三セクター等は権利関係の複雑さもあり経営が悪化しても改革が先のはしされてきたきらいがあるが、財政健全化法の施行を機会に、今後、その「処理」が本格的に動き出す。

#### 公立病院存続へ新たな財政措置を検討

また、総務省は7月1日、公立病院に関する財政措置のあり方等検討会(座長・持田信樹東京大学大学院教授)を発足させた。過疎地や特定診療科目での医師不足の深刻化など公立病院をめぐる経営環境の変化を踏まえ、公立病院に対する新たな地方財政措置のあり方等を検討するのが目的だ。

公立病院については、「骨太方針2007」で、「総務省は、各自治体にガイドラインを示し、経営指標に関する数値目標を設定した改革プラン

を策定するよう促す」ことが盛り込まれた。これを踏まえ、総務省は昨年暮れに「公立病院改革ガイドライン」を各自治体に通知した。

これを受けて、公立病院を抱える各自治体では、経営指標にかかる数値目標を設定するなど経営の効率化(3年間) 公立病院の統合・再編や経営形態の見直し(5年間) などを内容とする「公立病院改革プラン」を策定し、その具体化に着手している。

しかし、産婦人科・小児科等での医師不足も加わり、地域医療を担っている公立病院の見直しは各地域で深刻な問題を引き起こし始め、国会等でも問題点などが指摘された。このため、同検討会を設置、新たな財政措置を検討することにしたもの。

具体的には、ガイドラインで既に示された公立病院に関する財政措置のほか、新たに いわゆる「不採算地区病院」など過疎地等における病院・診療所にかかる地域医療確保のために必要な財政措置 産科、小児科、救急医療等に関する財政措置 公立病院の経営形態多様化を踏まえた財政措置、などを検討。来年度予算案に反映させるため年内にも報告をまとめる。

財政健全化法の施行を踏まえ公立病院の経営改革に乗り出したもの

の、各地域で深刻な事態が生じ始めたことから、一転、新たな財政措置に踏み出すことにしたものといえる。増田総務相も、記者会見で、「公立病院改革ガイドライン」を策定して、各地方団体に公立病院改革への取組みを要請しているが、その後の地方団体との意見交換、あるいは国会等での質疑で、「経営効率化の努力がほぼ限界までできているが、他に民間病院等がなく、無くすることができない公立病院について地方交付税措置などを充実してほしい」という強い要望が寄せられている。それらにどう応えていくか。限られた(財源の)中で地方財政措置を講じるには、地域の医療をどう守っていくのかが議論がきちんと行われていなければならない」と述べた。

自治体立病院は1,018病院(08年1月)あるが、全病院に占める割合は12%と低い。しかし、へき地医療拠点病院(252病院)では自治体立病院が72%を占めるほか、地域災害医療センター(528病院)の45%、救命救急センター(209病院)の38%を占めるなど、自治体立病院は地域にとって不可欠な役割を担っている。しかし、その経営は年々悪化、06年度は79%で経常損失を抱えている。

(自治日報記者 井田正夫)

現 地 レ ポ ー ト

町村独自のまちづくり

地域の環をつなぐ

循環型社会のまちづくり

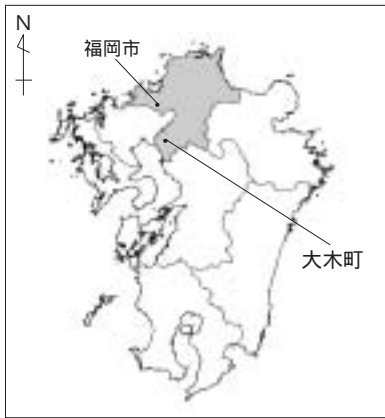
会広報部職員が取材した。

町の概要  
「農業とクリークの里」

福岡県南西部に位置する大木町は、人口14,554人(平成19年3月31日現在)、面積18.43平方kmの小さな町だ。

筑後平野の中央部、肥沃な土地と温暖な気候に恵まれ農業を基幹産業としている。米やい草の生産を中心に発展してきたが、近年ではイチゴ、シメジ、アスパラガスなど収益性の高い農作物の生産にも力を入れている。特にシメジは、町内に12の農事組合法人が設立されるなど、農業に活気のある町としても注目を集めている。

町を歩くと網の目のように張り巡らされたクリーク(堀割)を目にする。クリークというのは、低平地な水田地帯に掘削された水路網のことである。中世以前、筑後平野は低湿地帯であつ



福岡県大木町。筑後川下流域の肥沃な大地と温暖多雨の穏やかな気候を生かし、水稲、麦、い草を中心に発展した農業の町に、いま全国各地から視察が相次いでいる。

大木町は2008年3月、「もったいない宣言(ゼロウェイスト宣言)」を公表し、「おおき循環センター」を

梅雨の中休みのある日、「くるるん」で、注目の取り組みについて全国町村

おおきまち  
福岡県 大木町



クリークの里石丸山公園

フォーラム

おおき循環センター「くるるん」



「くるるん」  
循環のまちづくり拠点施設

今回取材したのは循環型社会のまち

た。そこに住む人々は低湿地帯を掘削し、土盛りし乾田化して人工的な農地を形成してきた。農業用水の確保の為、また洪水時の貯水槽、生活用水路として水路は掘り進められ、クリークは現在大木町の14%を占めている。クリークのある風景は、この地域特有の農村景観の一部を形成している。

町の取り組みについて熱心に聞く視察団一行

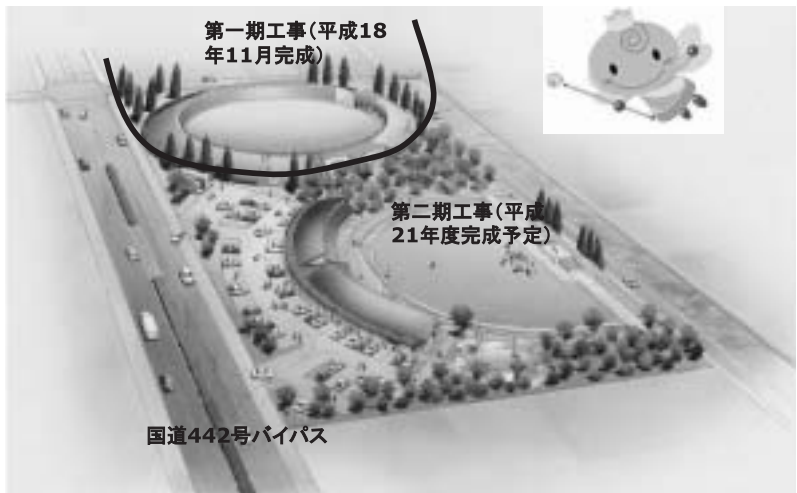


「くみ処理施設」と聞くと、町の端で人影もあまりないような場所にあると想像していたが、「くるるん」は、人家づくりの拠点となる、おおき循環センター「くるるん」以下「くるるん」である。そこには、町内から出る生ごみや浄化槽汚泥・し尿をバイオガスや有機肥料に変えるバイオガスプラントや環境学習室・資料展示室等がある。これらの施設建設は、平成17年度からはじまった、おおき循環センター整備事業の一環であり、他に農産物直売所や郷土レストランの建設を予定している。

また、町中心部に位置する立地条件を生かし、住民が気軽に訪れる場として、さらには都市と農山村の交流の場として、整備していきたいとのことだった。現在、町では家庭から出るごみを生ごみなど、20の資源ごみに分別。このような細かな分別によって再資源化を進め、ごみ減量化につなげている。生ごみの分別については、平成13年度からモデル地区を設定し、試験的に開始。平成18年11月から町全域に拡大した。これによって、焼却ごみの量が44%減少、コスト面では約2000万円の削減につながった。

このように「資源」である生ごみの収集、ごみの分別には、住

民の協力が欠かせない。町はその協力と理解を得るために、各集落の公民館で100回以上の説明会を行ったという。農業を営み、液肥利用推進協議会会長の今村利光氏に住民側の立場から話を伺った。生ごみの分別が始まったとき、一般の家庭から苦情が出ることにはなかったという。「文句が出なかったのは行政がきちんと説明したためだろ」とも語る。



「くるるん」基本計画図

フォーラム

センターを訪れた人々に向け町の取り組みを分かりやすく説明したパネル



「資源化」の産物・有機質液肥

町の基幹産業は農業である。循環型社会のシステムは農業の発展にも寄与している。「くるるん」でできた有機質液肥「くるるつ肥」は営農組合の申込を受けて、田んぼに散布される。散布は、1反あたり500円で循環センターが散布車を出し作業を請け負う。「くるるつ肥」のもととの原料は町内から出るし尿や生ごみであり、生成され

る量が限られる。そのため、町の全ての農地に播くことはできない。しかし、散布作業を循環センターが請け負うことで農家の作業にかかる負担を軽減し、肥料代も従来の10分の1程度に削減。町の農家も、液肥利用推進協議会に参加して町の事業に協力している。また大木町住民は無料で「くるるつ肥」を手に入れることができ、口こみで評判を聞きつけて町外からも問い合わせがあるという。

有機液肥を与えられ収穫された農作物は、地元で育った安心・安全な食物として町民の食卓へ届けられる。調理後の残渣やし尿は、ふたたび循環センターに持ち込まれ、液肥の原料となる。

「くるるつ肥」を用い、福岡県減農薬・減化学肥料栽培基準に基づいて栽培した米「環のめぐみ」(大木町産ヒノヒカリ)は順調な売れ行きを見せている。これは学校給食にも使われ、子どもたちの環境教育にも役立っている。身近なところで「循環」を実感できるのである。

目指すは2016年、大木町もつたない宣言

2008年3月、大木町は「もつたない宣言(ゼロウェイスト宣言)」を

公表した。ゼロウェイスト宣言とは、「ごみを「燃やさない、埋めなない」という考えのもと、徹底したごみの再利用・再資源化を目指し、ごみの発生そのものを抑制しつつ、持続可能な社会を実現しようとする取り組みのことである。

町の宣言では、「子どもたちにつけを残さない」町をつくることをはじめに謳い、2016年度までに、ごみ焼却・埋め立て処分をゼロにすることを目指している。国内では2003年の徳島県上勝町による宣言に続いて2例目である。

上勝町では2020年度の「ごみゼロ」を目標にしているが、それよりも4年も早い達成目標について、町ではどのような見通しがあるのか。野口主査は次のように語る。

「具体的な数値目標に向かって、ごみを減らす努力をしていくことは重要なことです。達成の行方は住民の方と行政の協力にかかっています。」

今年4月から、町ではごみの分別を20種類にし、さらに硬プラスチックと

各地区に配られる、生ごみ用バケツを紹介する野口主査



軟プラスチックの分別も試験的に実施している。将来、紙おむつなども分別するようになれば、ゼロに近づけられるのではないかと、手応えを感じているようだ。

一方、「もつたない宣言」をするこゝで住民の意識は何か変わったのか。ある住民の方は「突然やったのではなく、少しずつ生ごみを減らしてゼロにしようということ宣言したので、当たり前なこととして受け入れた」という。

平成7年度に、周辺自治体に先駆け資源ごみの分別収集を行うなど、環境への取り組みが早かった町ではあるが、宣言の公表は意識の浸透に一役買った。

フォーラム

循環型社会のまちづくりを支えるもの

昨年7月、IPCC(気候変動の取り組み二関する枠組み条約)による第4次評価報告書は、地球温暖化の原因は人為期限の温室効果ガスの増加にあると断定した。国、企業、地方自治体、住民はそれぞれの立場から、この問題に取り組まねばならない。地方自治体が展開している施策はさ

液肥利用推進協議会会長 今村氏



分別種類ごとの看板。並べて見ると圧巻



区を広報誌で紹介する表彰制度を設け、住民に地域の循環システムづくりに楽しく参加してもらえよう工夫をしている。なぜ住民がごみの分別など一連の取り組みに力を入れてくるのか興味を持つて町に視察に来る人達も多いという。そして、農業重視の姿勢を明確に打ち出している点ももう一つの特徴である。環境問題に取り組む時、一過性のもので終わらせては意味がない。持続させるためにも、自分の町の強みや弱みを把握し、地域の特性に合った施策が必要となる。「循環型社会は江戸時代にあつた社会。それがバージョンアップしたのが今の「くるるん」であり、農業が成り立って初めてできること」と北島環境課生活環境係長は大木町の強みを語る。今後の課題として、町の目指すまちづくりを実現するには液肥の栽培技術の確立などやるべきことは多いとい

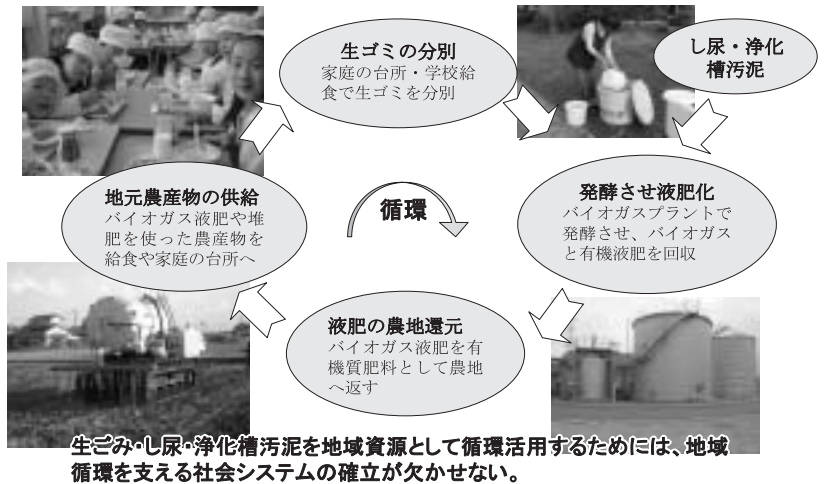
う。しかし、循環型社会の構築にむけ、様々な取り組みをする過程で住民ともにごみの量を減らし、住民とのつながりも強化されるなど、大木町のまちづくりは、着実な成果をあげている。「もったいない宣言」の達成はもちろんのこと、小さくても輝く自治の根ざす町として、さらなる発展が期待される。

(全国町村会広報部 片岡志穂)

まざま、自然エネルギーの導入に力を入れているところもあれば、環境保全型の農業を推進して周辺地域の自然を守るという動きもある。そんな中、大木町の環境政策の特徴は何か。まず、循環型社会をめざす町の取り組みは、環境政策というよりもむしろ、まちづくりの一事業という面が強い点である。循環まちづくり委員会を設置し、住民からの要望や提案を聞く場を設けたり、ごみの分別が優秀な地

区を広報誌で紹介する表彰制度を設け、住民に地域の循環システムづくりに楽しく参加してもらえよう工夫をしている。なぜ住民がごみの分別など一連の取り組みに力を入れてくるのか興味を持つて町に視察に来る人達も多いという。そして、農業重視の姿勢を明確に打ち出している点ももう一つの特徴である。環境問題に取り組む時、一過性のもので終わらせては意味がない。持続させるためにも、自分の町の強みや弱みを把握し、地域の特性に合った施策が必要となる。「循環型社会は江戸時代にあつた社会。それがバージョンアップしたのが今の「くるるん」であり、農業が成り立って初めてできること」と北島環境課生活環境係長は大木町の強みを語る。今後の課題として、町の目指すまちづくりを実現するには液肥の栽培技術の確立などやるべきことは多いとい

環をつなぐ地域社会システム



生ごみ・し尿・浄化槽汚泥を地域資源として循環活用するためには、地域循環を支える社会システムの確立が欠かせない。



町村Navigationコーナーでは掲載情報を募集しています。  
掲載を希望の場合は全国町村会広報部  
(TEL03-3581-0486)まで。

**福島町** 定住・二地域居住促進  
事業を展開

町は、豊かな自然を活用し、交流人口を拡大させるため、定住・二地域居住を推進する各種支援事業を展開している。うち、「町有林おすそわけ事業」は、町内に定住する意思のあるUイーターン者で、町内業者により新築住宅を取得し、町村民税の滞納がない などを条件に、町有林(杉)をトラック1台分製材してプレゼント。また、「ようこそ小野町定住祝金交付事業」では、定住意思のあるUイーターン者で、住宅を取得(新築、中古問わず)していることなどを要件に、町内商店等で使える商品券(10万円相当)をプレゼントする。

さらに、「ETC・らくらく通勤応援事業」は、定住意思のあるUイーターン者で単身の転入ではなく、通勤に片道30km以上かけていることなどを条件に、ETC購入・設置費用を1万5千円を限度に助成。このほか、「ふれあい農家民宿開設応援事業」は、農家民宿開設希望者に、50万円まで補助。「ふるさと暮らし応援事業」は、交流・定住人口の拡大を目的とした事業を行う民間団体に、経費の2分の1か50万円のいずれか低い額を補助する。

**井狭町** 「認知症一行詩全国コンクール」で作品募集

町は、認知症をテーマとした一行詩の募集を開始した。身近な認知症の人の介護を通じて日常感じていることや、共感してもらいたいことを独自視点で表現した作品を求める。9月5日まで募集し10月中旬に入賞者に通知する。

作品は日本語で書かれた未発表のものとし、作品数に制限は設けない。小学生、中学生、一般に分けて表彰する。町は作品例として、「真夏日に冬帽子の母に 優しく寄り添う家族が居る」(一般の部)や、「私のことを忘れても またはじめましてから始めよう」(中学生の部)を示している。

応募方法は、はがきに作品や氏名、住所などを明記。電子メールでも受け付ける。賞は各部門、最優秀賞(各部門1名)、優秀賞(同2名)、入選(同5名)佳作(同20名)。最優秀賞では、小学生にはそれぞれ10万円(図書カード)を、一般には20万円を贈呈。優秀賞は、小学生に各5万円(同)を、一般に10万円を贈呈する。なお、入賞作品は作品集にして出版する。

問合せは企画課(電話0247-726939)へ。

**府根町** ふるさと納税者も  
京伊 パブコメの対象に

町は、パブリックコメント「住民意見公募制度」を7月から施行したが、意見を提出できる者に、ふるさと納税など町に寄付した者も対象に加えた。同制度は、既に多くの自治体でも導入されているが、寄付した者も対象にするのは珍しい。

「伊根町住民意見公募制度実施要綱」は、公募対象を、町の基本的な構想や計画、個別分野の基本的な計画や方針、町政の基本方針を定める条例、などとした。また、意見を提出できる者を、町内に在住・在勤・事務所を有する個人・団体、事業に利害関係を有する者、としたほか、「町に対し納税義務を有する者又は金品若しくは物品の寄付を行った者」も対象に加えた。「ふるさと納税する人は、町への思いがある人々(総務課)のため対象にしたという。ふるさと納税は7月中旬現在、24件あり、総額は約50万円にのぼる。町では現在、「第5次総合計画・基本構想案」をパブリックコメントにかけているが、今後、寄付した人への周知方法を考えることにしている。

**山南町** 住民への対応向上へ  
和歌山県 和歌山県 和歌山県  
「接遇マニュアル」作成

町は7月、職員の住民への対応を向上させるため、「接遇マニュアル」を作成し、全職員に配布した。

マニュアルは企画政策課がインターネットなどで情報を集めて作成。職員としての基本的な心得、身だしなみ、言葉遣い、来客時の対応、名刺交換、など9項目について説明。基本的な心得で

は、職員1人の評価は役場全体の評価につながる」と強調した。各項目には「町長から一言」として、TPOをよく考えて柔軟に対処してください、などの補足も加えている。経費を抑えるため、作成から配布まで職員が行った。

町では以前から職員対応について住民からの苦情がしばしばあった。このため、今年2月の町長選で、全国最年少市町村長として当選した玄素彰人町長は、「接遇マニュアル」の導入を公約に掲げていた。同様のマニュアルは茅ヶ崎市や浅口市なども導入している。

**熊本町** 環境保全型農産物に  
認定制度

町では、環境型農業の推進と農産物のブランド化を目的に、「山都町環境保全型農産物の認証制度」を始めた。8月にも町の認証を受けた農産物が市場に出回る。

熊本町では、「熊本型特別栽培農産物生産基準」(土づくり、減化学肥料、減農薬)で栽培した農産物を、「有作くん」として認証している。町の認証制度は、同表示ガイドラインの「慣行レベル」に定められる化学肥料窒素成分の使用量(と化学合成農薬の使用回数(有効成分の延べ使用回数)の削減割合)に応じて、さらに詳細な格付けを設けたもの。具体的には、化学合成農薬・化学肥料については、使用しない農産物は「金」、8割以上削減した農産物は「銀」、5割以上削減した農産物は「銅」にそれぞれ格付けし、それを表示したシールを交付する。

申請は年2回で、町が選定した生産者らが書類とほ場を審査し格付けする。現在、第1回の審査を行っており、近く認証する。



## 情 報

## 「温泉ビューティ」＝温泉の美容力

温泉の新しい魅力を活用して  
地域の活性化につなげましょう

温泉ビューティ 研究者

石井 宏子



厚生労働省認定温泉入浴指導員、気候療法士、温泉ソムリエ、日本温泉気候物理医学会準会員、温泉学会、温泉地域学会、温泉科学会会員、旅のペンクラブ、旅行作家の会会員  
外資系化粧品会社などのマーケティング・広報に携わった後、温泉の美容力に魅せられ「温泉ビューティ研究者」として独立。ドイツにて自然療法を学び、日本人初の「気候療法士」の研修過程を修了、温泉旅の全てを活用した「温泉セラピー」プログラムも提唱している。  
著書「温泉ビューティ」、公式ホームページ <http://www.onsenbeauty.com>

自然の恵み「温泉」。環境省発表の平成18年度温泉利用状況の統計によると、日本全国に温泉地は3、157あり、登録されている源泉総数は28、154本、47都道府県全てに温泉があり、温泉登録がある市町村は1489、まさに世界一の温泉利用国です。

温泉に入ると、肌がしっとりしたり、肌の表面がすべすべしたり、血行が良くなったというのを感じたことがあるでしょう。温泉と美肌や美容は密接な関係があり、古くから「美人の湯」「美肌の湯」という言葉で表現されてきました。日本最古の美人湯についての記述は、出雲国風土記（天平5年/733年）といわれ、「ひとたび濯げば形容端正（かたちきらきら）しく、再び浴すれば万

の病こそとに除くる」とあり、玉造温泉が賑わっている様子が描かれています。

このように1300年以上も前から、温泉には癒し・健康・療養・保養以外にも、美容・美肌といった目的もあったということがわかります。日本全国には「美人の湯」「美肌の湯」が数多く存在しています。みなさんの町村にも「美人の湯」と呼ばれている温泉があるのではないのでしょうか？では、その温泉はどのような温泉ですか？「美人の湯」といえばこういう温泉、「美肌の湯」といえばこういう温泉という定義はあるのでしょうか？

温泉は地球がくれたビューティツール

温泉に入浴するということは、自

然の恵みをいただくということ。私たち人間がひとりひとりみんな違うように、温泉もそれぞれ違い、刻々と変化する生き物なのです。

温泉には様々な成分が含まれています。源泉の成分を分析しどのような温泉かを示したものが「温泉分析書」、温泉地ではこの揭示が義務付けられており、温泉の入り口や脱衣所で確認することができます。この温泉分析書には、温泉法で定められた温泉成分や療養成分（健康によいと考えられている成分）を分析した数値が記載されており、その主成分が「泉質」として表示されています。「泉質」は大きく分けて9種類あり、それぞれ適応症（どのような症状におすすめるのか）が違います。つまり、温泉は泉質によって、おすすめることができる症状（一般的には効能

と呼ばれておりますが）が違います。このそれぞれの泉質の違いを基に、美容効果別に研究を進めたものが「温泉ビューティ」、つまり「温泉の美容力」活用法というわけです。

温泉にはただ入るだけで美肌になれる要素がたくさんあります。しかしながら、ただやみくもに入るよりも「温泉選び」や「温泉の入り方」「湯めぐりの順番」などで、美容効果はぜんぜん違ってきます。たとえば、美肌。温泉の泉質を選び正しく入れば、クレンジング、保湿、美白や美肌促進など目的に合わせたスキンケアができます。デトックスやダイエットもそうです。温泉による循環促進作用で代謝機能を活性化させたり、効率のいい脂肪燃焼や代謝促進の入浴法をマスターすれば、温泉でデトックスやダイエットをサポート

トすることもできるのです。温泉は地球がくれた天然のビューティツール、温泉の美容力を活用して美と健康を手に入れましょう。

美と健康の温泉「美人の湯」「美肌の湯」とは？

古くから「三大美人泉質」と呼ばれている美肌効果が高い泉質が「炭酸水素塩泉」「硫酸塩泉」「硫酸泉」です。さて、それは、いったいなぜ、美人泉質なのでしょう？ここに、美と健康に欠かせない大切な3つの要素が隠されていました。

1番目のキーワードは「落とす」。肌のお手入れのはじめに何をしますか？そう、汚れを落とすということですね。これに適した泉質は「炭酸水素塩泉」、そして、pH値が8.5以上のアルカリ性の温泉も同じような作用が期待できます。

お肌のお手入れの基本はクレンジングから、これは化粧品を使う毎日のスキンケアの常識です。わたしたちは、お肌を清浄にするために、せっけんや洗顔料の助けを借りて、お肌の上に残っている余分な皮脂や汚れ、古い角質などを落とし、すべすべの素肌をキープしているわけです。実は温泉にも入るだけでこの作用をしてくれる泉質があります。

それが、炭酸水素塩泉とアルカリ泉です。「炭酸水素塩泉」特に、ナトリウム・炭酸水素塩泉(重曹泉)は、古い角質や汚れを落とし、くれる「クレンジング作用」が期待できる温泉、お肌がスベスベつるつるになります。

また、「アルカリ泉」(pH8.5以上)も、肌の皮脂と結びついてせっけんのような作用がおこります。単純泉でもアルカリ性の温泉は、美人の湯と呼ばれているのはこのためです。クレンジング作用の高い温泉に入ると、全身のお肌が「洗顔後」の肌ようになります。ですから、湯あがり後は、無防備になった肌をそのまま放置していたら大変です。いらないものをすっきり落とした素肌はお手入れのチャンス、10分以内に「保湿ケア」を行えば美容効果倍増、キレイになったお肌にとつぷりと栄養を補給して美肌を手に入れましょう。

2番目のキーワードは「めぐる」。体の中からきれいにするために適した泉質は「硫酸泉」、そして、炭酸力と豊富に含まれた二酸化炭素泉も同じような作用が期待できます。硫酸に含まれる硫化水素成分は毛細血管の拡張作用があることから、末梢循環がよくなり、代謝促進作用、つま

りデトックスが期待できます。

同時に、滞ったメラニンの代謝を促進してくれるので、繰り返し入ることでシミ・くすみ対策も期待できる、美白の湯ともいえます。体のすみずみまでのびている毛細血管の血流がよくなれば、酸素や栄養も順調に供給されるし、滞りがちな老廃物は運び出されて、クリーンな体、クリアな美肌へ導いてくれるというわけです。この代謝促進作用は、「ダイエット」や「メタボリック症候群」という言葉が気になる方にも注目の作用です。まずは、体のめぐりを良くして、溜まってしまった老廃物を追い出すことが第一歩になるからです。

硫酸泉は、さまざまな温泉ビューティをもたらししてくれます。腸の運動を盛んにして便秘解消になったり、毒素が排出されてデトックスができたり、さらには、滞ったメラニンの代謝の促進が期待できます。そので、シミ・くすみ対策にもおすすめの美白作用も期待できる美人温泉のひとつです。「色白」は七難隠すなどという言葉もあり、古くから日本では、白い肌が美人の象徴のように思われてきました。これは、個人個人のもともとの肌の色というよりも、いかにくすみのない「透明感のある

素肌」であるかということにさしてきます。肌の透明感、皮膚の外側と内側の両方からつくられます。まずは、外側。過剰な皮脂を乳化して落とす作用が期待できますので、テカリ肌やニキビ肌、毛穴の汚れが気になる方にもおすすです。さらに内側からも期待できる美肌サポート、これが「めぐる」作用、つまり血行促進して体のめぐりを良くする働きというわけです。

3番目のキーワードは「補給」。お肌のお手入れの仕上げは潤い補給、それに適した泉質は「硫酸塩泉」です。乾燥、カサカサ、シワ、衰え、疲れ、たるみ・・・、こんな言葉が気になる肌におすすめなのは、潤い補給のできる化粧水のような作用が期待できる硫酸塩泉です。

毎日のスキンケアに欠かせない「化粧水」、日本人は化粧水やミストが大好きな国民として有名です。その化粧水文化が世界一美しいと評価されている日本女性の素肌美を支えてきた一因がもしれませんが、(わたしは温泉への入浴文化も関与していると思っておりますが・・・)洗顔後の素肌に潤いを与える化粧水や、美肌に導くしっとり系化粧品や入浴剤に取り入れられてきた潤いをキープする成分のひとつが「芒硝」ナ

情 報

トリウム・硫酸塩泉に含まれる温泉成分です。

さらに、もうひとつおすすめしたい泉質が「塩化物泉」、塩の働きで保温・保湿が期待できる温泉です。温泉に入ると、湯あがりの直後はお肌がしっとり、ふつくらしているのだけれど、しばらくすると、乾燥してきてカサカサしてしまつた。美肌の湯って書いてあつたのに、おかしいわ・・・。という経験をした方もいらっしゃるかもしれません。また、冷え性ぎみで、体も顔もいつも冷たくて顔色がさえないという方にもおすすめです。塩化物泉は、温泉に含まれる塩の成分が皮膚表面にある皮脂やたんぱく質などと結びついて「塩皮膜」を形成します。その塩皮膜が薄いヴェールのように肌を包み、肌の水分や熱を逃げにくくしてくれる保護膜のような働きをしてくれまので、湯あがり後も「しっとり」「ほかほか」が持続する「保温&保湿」作用が期待できます。塩の温泉は、通称「熱の湯」ともよばれるほどあたたまり効果が高く、皮膚温度の上昇や発汗促進作用が期待できます。また、塩皮膜作用で湯あがり後もポカポカが持続しますので、温泉で体の芯まであたたまって美と健康につな

がるというわけです。

このように、「温泉」にもいろいろ違いがある、ということを感じていただけましたでしょうか？それぞれの町村にある温泉の泉質や特徴をもう一度見直してみると、それぞれの美容力が見えてくるのではないのでしょうか。そうした隠れた魅力、新しい魅力を掘り起こして、それぞれの温泉の特徴を生かした、地域活性の取り組みを行い、温泉を「美と健康を手に入れる」ひとつの方法として活用していただけたらと思います。

温泉旅は自然療法

温泉旅にはたくさんの「自然療法」の要素があります。その土地ならではの食に出会えるということ、これは大きな楽しみというだけでなく、たとえば、山菜やキノコなど山の幸は体を浄化して体調を整えてくれる美肌の強力なサポーターです。また、たくさんの品目や新鮮な食品も摂取できます。湯めぐりをしたり、温泉街を散歩したり、自然に触れたいりすることで、知らず知らずのうち適切な運動ができた、気分転換になる転地作用も脳内ホルモンの活性化につながります。

このように温泉旅では、私たちの

美と健康につながる「いい刺激」がたくさんあります。温泉旅でもっと美肌を手に入れるキーワードは「体感」。温泉旅で出会つさまざまなことを深く意識して「体感」して過ごすということ。わたしは、昨年ドイツ研修に参加し自然療法を学びました。ドイツでは、温泉だけでなく、空気、太陽、風、森、山、川、海など自然全てを活用した療法が医学のひとつになっています。

たとえば、温泉街を散歩する時、アスファルトの道、土、草、小石など歩く場所によって、その感触の違いを靴の上からでもいいので意識して歩いてみるのもおすすめです。普段の生活で忘れがちな足の裏の感触、石は堅い、草の上はふかふかする、小石がごろごろする、そんなことをしっかりと感じて歩くことで脳トレーニングとなり、脳内ホルモンの活性化につながります。温泉をとりまく環境全てを、ご当地ならではの「体感」していただく、そんな温泉セラピープランを推進して、みなさんの町村ならではの新しい魅力を美と健康に活用してみませんか？

私たちが資産を守るパートナーです。



金融資産の運用から、相続対策、遺言・不動産等まで、私たちは、お客様のパートナーとして、世代を超えて、お付き合いさせていただいております。まずは、お気軽にご相談ください。皆さまからの電話やご来店を、心よりお待ちしております。

●資料のご請求は下記までお問い合わせください。  
インフォメーションデスク  
0120-897-117

信託世代の、住友信託銀行

何かと面倒な相続手続き、お手伝いいたします。

# 遺産整理業務

[わかち愛]



※遺産整理業務には所定の手数料がかかります。※遺産整理手続き完了時(例)遺産額2億円の場合、遺産整理業務手数料2,887,500円(消費税込み)。(平成17年10月1日現在)

三菱UFJ信託銀行

お問い合わせは ☎0120-349-250 ご利用時間/平日・土・日 9:00~17:00(祝日等を除く)(回線がつながりましたら☎を押してください。)

## 随 想

## 随 想

福島県川内村長

遠藤 雄幸

## 先人から教えられたもの



ある高塚山にも登った。以来、心平や自身の繋がりのある文化人や芸術家が本村を訪れることが多くなり、村民との親交も深まっていった。心平の蔵書三千冊を村に寄贈されたのを機に、文庫建設の話がもちあがった。

阿武隈高地の中腹にある我が「かわうちむら」に、詩人草野心平が訪れたのは昭和二十八年の夏の頃だった。ロイド眼鏡に麦わら帽子、セル

リアオガエルの神秘的な産卵を目のあたりにした。

の着流しに桐の下駄を履き、出迎えに行つた長福寺の矢内俊晃和尚を驚かせた。実はこれより四年前、心平

「うまわるや 森の蛙は 阿武隈の平伏の沼へ 水槽のかけ」

は「天然記念物モリアオガエルの生息地を教えてほしい。」と、ある新聞に投書したのが矢内和尚の目に止まり、早速に生息地である平伏沼へ

よく「出会い」という言葉が使われる。それはあたかも偶然的なものとして捉えられがちだが、自ら求める気持ちがないと出合いには恵まれないし生かすこともできない。詩人

ぶすめまへへの招待の手紙を書いた。心平からは是非見たいという返事を貰ったが、この年には心平の希望は果たせなかった。

草野心平との出合いは一通の手紙から始まった。毎年卯を産みつける六月になると、必ず誘いの手紙を送つた和尚の思いはいかほどだったのか。今となつては想像の域を越えないが、その思いが心平を動かし出合いが生まれた。このことが将来、川

根山に源をもつ木戸川の清流と、そこに泳ぐ「岩魚」や「かじか」にみとれ、心温まる村民と酒を酌み交わし、幾夜を過ごしながら、標高八百メートルの山頂にある平伏沼で、モ

内村の財産、宝物になることを誰が予想できただろうか。

二、三年後には山本太郎、辻一、会田綱雄等が来村し、平伏沼や「満天星(どうだんつじ)」の群生地で

困る。

天山文庫は建築家山本勝巳により設計され、川端康成が書いた「天山」が玄関に飾られた。落成を機に、「天山文庫設立協力委員会」が中央に

できた。発起人には、私どもが作品を通してしか想像することができないようなアーティストが名を連ねた。井上 靖、川端康成、武者小路実篤、中野重治、谷川徹三など、全てを列挙するわけにはいかないが、当然彼らの多くは本村を訪れ自然を満喫し、村民と温かな出合いを楽しんでいる。さらに、棟方志功や檀

一雄、谷川俊太郎、石川達三等が天山文庫を訪ねている。

その後昭和三十五年名誉村民に推挙された心平、八十五年の生涯を全うした今、そしてこれからも、その偉業は村民の心から消えることはない。文庫落成を記念して毎年行われる天山祭り。没後二〇年の今年四十三回目を迎える祭りには、村内外から多くの心平ファンが押しかける。

矢内和尚は、翌年も心平に招待状を送った。この繰り返しだが五年続き、ついに村を訪れた心平は、大滝根山に源をもつ木戸川の清流と、そこに泳ぐ「岩魚」や「かじか」にみとれ、心温まる村民と酒を酌み交わし、幾夜を過ごしながら、標高八百メートルの山頂にある平伏沼で、モ

天山文庫は建築家山本勝巳により設計され、川端康成が書いた「天山」が玄関に飾られた。落成を機に、「天山文庫設立協力委員会」が中央に

できた。発起人には、私どもが作品を通してしか想像することができないようなアーティストが名を連ねた。井上 靖、川端康成、武者小路実篤、中野重治、谷川徹三など、全てを列挙するわけにはいかないが、当然彼らの多くは本村を訪れ自然を満喫し、村民と温かな出合いを楽しんでいる。さらに、棟方志功や檀

一雄、谷川俊太郎、石川達三等が天山文庫を訪ねている。